

# 歴史能力検定

10年前にスタートした「歴史能力検定試験」の受験者が増加している。その背景には何があるのか。歴史を学ぶ必要性、意義はどこにあるのか。歴史能力検定協会会長で主催の財団法人社会教育協会理事長の黒水恒男氏にうかがった。

## 黒水恒男 氏

Kuromizu Tsuneo

歴史能力検定協会会長 / 財団法人社会教育協会理事長



1932年旧朝鮮・京城(現韓国・ソウル)生まれ。1950年小倉高等学校卒業、朝日新聞社入社。1951年京都大学文学部入学。1956年京都大学文学部卒業、株式会社電通入社。営業部長、広報室長を経て1989年株式会社電通PRセンター代表取締役社長。1990年社団法人日本パブリックリレーション協会理事長。1995年株式会社電通PRセンター相談役。1996年社団法人日本パブリックリレーション協会顧問。1997年日本広報学会理事。1998年財団法人社会教育協会理事長(現職)、1999年歴史能力検定協会会長(現職)。

## もともとはシルバー世代を想定してに立ち上げた

歴史能力検定試験(以下、歴検)を立ち上げた経緯についてお聞かせください。  
**黒水** まず、財団法人社会教育協会では何らかの検定試験を立ち上げようと考えたのは、今から10年以上前のことです。当時、そのテーマについては2つの案がありました。1つは環境教育、もう1つが歴史教育です。なぜ最終的に歴史になったかといえば、日本の歴史教育がとても中途半端で、特に明治以降、「国にとって都合の悪いことは教えない」という歪みを感じていたことが大きな要因だったと思います。そのためもあってか、この試験の立ち上げには抵抗もありました。そして「あくまで社会教育の一環としてやっていこう。学校教育にはタッチしない」という考えで1997年にスタートしたのが「歴史認定試験」です。

当初は「検定」試験ではなかったのですか。

**黒水** 立ち上げ当初は、試験の対象は「シ

ルバー世代」になると目論んでいました。ところがいざ蓋を開けてみると、1997年の第1回目の試験の受験者数は約4,000人だったのですが、受験した人の多くはこちらの予想とは全く異なり、10代、20代の若い人たちだったのです。歴史が好きで興味を持っている人というのは、若い人の中にも一定数はいたということでしょうが、意外でした。

その後の1999年、受験者数が伸び悩んだこともあり、「認定試験」をやめて、可否結果がある「検定試験」に変えました。今度はターゲットもシルバーではなく学生をターゲットにしました。それでも2年ほどなかなか受験者数は伸びず、そろそろ撤退か、と考え始めたとき、2001年に年間約1万5,000人というところまで受験者数が急増したのです(次頁・資料1参照)。

なぜ急に受験者数が増え始めたのでしょうか。

**黒水** はじめから全国各地の教科書販売会社のご協力を得て、もっぱら中学の先生方にお勧めしていたのですが、その効果がジワジワと出てきたのだと思います。そして、

先生方が口コミを通して歴検を知り、その良さも伝わって学校単位で受験するという方式が急に増えたのです。

試験の現状は。

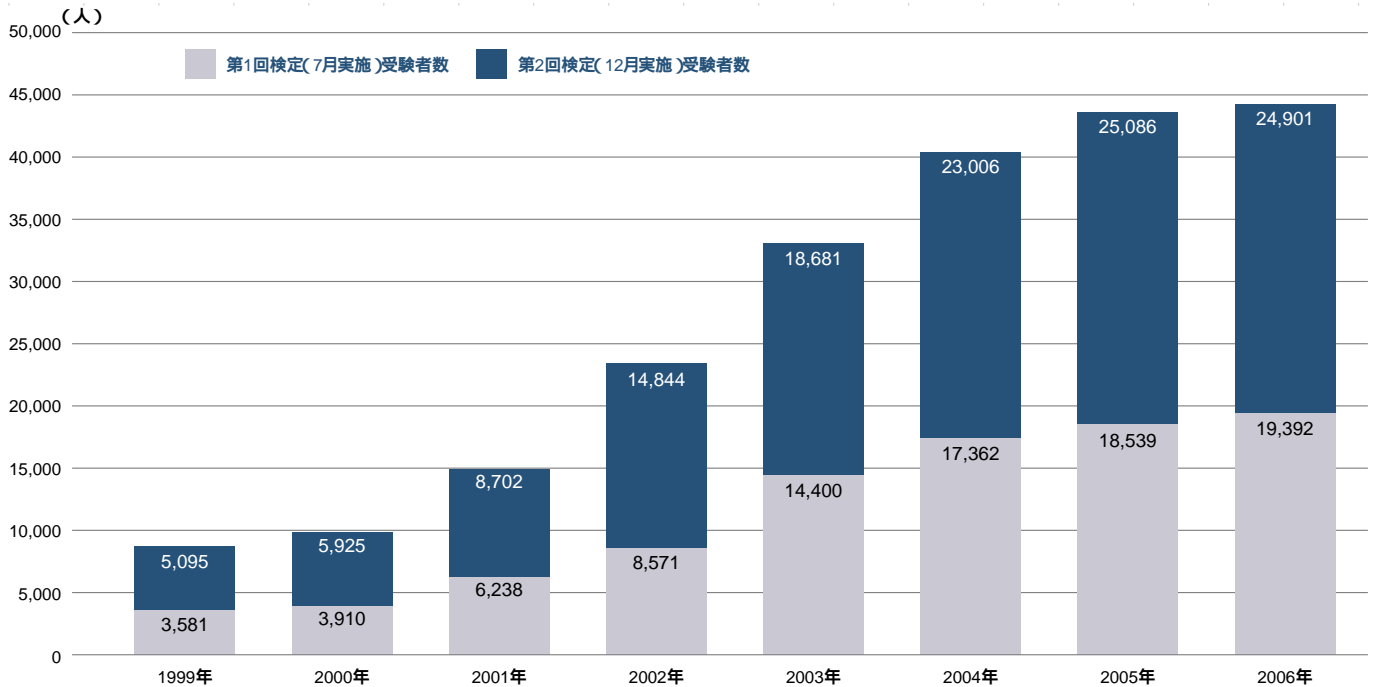
**黒水** 試験の科目は日本史と世界史で1級から3級まで、それに区別のない14級だったのですが、今はそれに準3級と5級が加わっています(次頁・資料2参照)。級を増したの先生方からの要望があつてのことです。そのようなこともあり、2006年には年間受験者数が約4万4,000人というところまで来しました。受験者の約9割は10代で、ほとんどが中学生という状況です(45頁・資料3参照)。

## 進路選択に最適な歴史教育

歴史を学ぶ意義についてはいかががお考えですか。

**黒水** 最近のグローバル化時代にかかわらず、日本人は歴史を学ばない民族ではないでしょうか。それに比べて欧米人

## 資料1 受験者数の推移



出所：歴史能力検定協会資料

## 資料2 級の内容

### 1級(日本史・世界史)

公開会場でのみ、年1回(12月検定のみ)実施。学校での学習にとらわれない広い範囲から出題されます。出題形式も4肢択一問題をはじめ、記述・論述問題などがあります。

### 2級(日本史・世界史)

公開会場または日曜日準会場(公開会場と同日)で実施。出題されるテーマは高校で学ぶ程度のもので、比較的高度な歴史知識が要求されます。自信のある方向向けの試験です。また記述問題も出題されます。

### 3級(日本史・世界史)

高校で学ぶ基礎的な歴史知識を問う試験です。社会人や高校生が自分の歴史知識を試すのに最適です。

### 準3級(日本史)

準会場でのみ、年1回(12月検定のみ)実施。中学校で学ぶ程度の歴史知識を基本としながら、それにとらわれない範囲からも出題されます。準3級は「世界史」の科目はありません。

### 4級(歴史基本)

中学生程度の知識があれば、楽しく受験できます。

日本史と世界史を一つにした試験で、歴史の常識問題が出題されます。

### 5級(歴史入門)

公開会場では年1回(7月検定のみ)実施。準会場では年2回とも実施可。小学校修了程度の基本的な日本史の問題が出題されます。小学生や中学生が自分の歴史知識を試すのに最適です。

3級以上は、日本史・世界史それぞれ別個の試験。

出所：歴史能力検定協会ホームページ  
(<http://www.rekiken.gr.jp>)

など他国の人は、歴史をよく学びます。驚かされるのは、国際的なパーティーなど、外国の出席者は、たいがいきちんと日本はもちろん世界の歴史を勉強しています。日本人は、全く太刀打ちできないほどで、これは悲しい現実です。特にこれからのグローバル

時代は教養としての歴史を知ることが必須でしょう。歴史を知ること、今の自分を知ることであり、これから先の世の中を考えるために必要な知識なのです。

小中学生が歴史を学ぶ必要性とは。

**黒水** 昨今、将来の目標や自分の進路を

決められない若者の増加が社会的に問題視されています。その解決策のひとつとして、歴史教育が大きな役割を担っていると考えています。具体的には、知的好奇心が旺盛になる小学校高学年から中学校時代に、自分の人生の目標となるモデルに出会

## 資料3 受験申込者内訳

## 受験申込者の職業別割合

	小学生	中学生	高校生	専門学校生	短大生	大学生	会社員	公務員	団体職員	教師	主婦	自営業	自由業	その他	不明	合計
2004年度	0.6%	80.7%	6.4%	0.4%	0.1%	4.2%	2.3%	0.7%	0.1%	0.4%	0.3%	0.2%	0.3%	1.2%	1.9%	100%
2005年度	0.7%	78.9%	7.0%	0.3%	0.1%	4.1%	2.5%	0.8%	0.1%	0.4%	0.4%	0.2%	0.3%	1.1%	3.0%	100%

## 受験申込者の年代別割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	対象外	不明	合計
2004年度	90.5%	5.5%	2.1%	1.1%	0.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	100%
2005年度	90.2%	5.4%	2.3%	1.3%	0.5%	0.2%	0.1%	0.2%	0.0%	100%

## 受験申込者の男女別割合

	男	女	合計
2004年度	61%	39%	100%
2005年度	62%	38%	100%

出所：歴史能力検定協会資料

うことが、自分の将来を考える場合とても重要なことだと思うのです。したがって大人は子どもたちに、そのモデルのヒントを与えなければいけません。しかも、可能な限り広い視点に立ったヒントです。その材料として歴史は最適です。何せ歴史は、それまでに実際にあったこと、存在した人物が、地球規模で登場するわけですから、手本には事欠かないというわけです。

しかし現状の教育を見ると、歴史は単なる暗記の勉強になっていて面白くない。しかも受験のための単なる選択科目のひとつに過ぎません。したがって、選択をしない生徒にとってみれば、まとも勉強する機会もない。しかし歴史は、「読み書きそろばん」と同様、すべての学問の基盤になるものなのです。私は歴史教育を必修にするべきだと思います。東京大学教授の山内昌之氏は最近の朝日新聞で「歴史の出来事に通じるなら、他の国や人との付き合いの中で、他者に対する寛容と自分への自信とのバランスのとれた姿勢を培うにちがいない」と述べています。

歴史能力検定試験は、歴史を学ぶための1つのきっかけになっているのが現状なのでしょうか。

**黒水** そう思います。歴史能力検定試験2級の最年少合格者の小学生は最初、『まん

が日本史』から歴史に興味を持ち、勉強をスタートしたそうです。面白いのは、彼は歴史上の出来事を、いかにも自分が見た出来事であるかのように話をするのです。彼の中では、歴史は暗記の勉強ではなく、人間ドラマとして脳の中に納まっているわけです。

## グローバル時代だからこそ必須の学問

国に対しての要望はありますか。

**黒水** 戦後の日本は、経済至上主義的になってしまい、歴史や文化といった何か大事なものを置き忘れたまま、ここまで来てしまったと思います。歴史教育にしても、まずはきちんと事実を教え、それを伝えていくことをしなければ、次の時代の進歩はありません。靖国参拝問題にしても、安易に善悪を議論するのではなく、まず国民全体が歴史認識をきちんと持つべきでしょう。もっと真摯な態度をとって欲しいと願います。歴史は、これからのグローバル時代にこそ必須の学問です。歴史を知らない日本人は、世界では通用しません。

現在、歴検の1級、2級合格者は、高等学校卒業程度認定試験の科目免除になりますし、いくつかの大学では、入学試験の科目免除にもなっています。しかし、それだけ

ではなく、例えば今後、大学入試では歴史を必修科目としたり、学校の指導者が手薄であれば、もっと社会人から歴史の教員を起用したりと、国には歴史教育のシステムを根本的に見直すようなことを考えて欲しいと思います。

今後どのような展望をお持ちでしょうか。

**黒水** 歴史能力検定試験としては、やはり「受験して良かった」「もっと勉強しよう」と、知的好奇心の刺激になり、やる気を触発するような面白い問題づくりに力を注いでいきたいと思っています。

また学校の先生の要望を受けて、級の新設や、受験料の値下げにより、誰でも受験しやすい環境づくりをしていきます。小学生からの受験者を増やしながら、近い将来受験者数を年間10万人以上にしていきたいと考えています。歴史に対する日本人の認識を変え、世界で活躍する人を増やすように今後も努力していきたいと思っています。



読者の皆様のご意見・ご感想をお寄せください。

[h-bunka@lec-jp.com](mailto:h-bunka@lec-jp.com)